

会 議 録

1. 会議名	出雲市子ども・子育て会議 第4回 発達支援検討部会
2. 開催日時	平成26年7月14日(月) 18:30～20:45
3. 開催場所	出雲市役所本庁 くにびき大ホール
4. 出席者	<p><委員></p> <p>板倉明弘委員、廣戸悦子委員、西郁郎委員、原広治委員、及川馨委員、岸和子委員、江角美枝委員、長光悦子委員、藤原美保委員、名越真理子委員、福田明美委員、太田澄子委員(順不同)</p> <p>欠席：山崎彰子委員</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、子育て調整監、子育て支援課長、健康増進課長、学校教育課長、福祉推進課長 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 部会の協議状況等について</p> <p>(2) テーマ別討議について</p> <p>① 出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて</p> <p>② 討議『つなぐ』</p> <p>(3) 子ども・子育て支援事業計画(案)について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
健康福祉部長	<p>1 開会</p> <p>子ども・子育て会議の審議は、「子ども・子育て支援事業計画」を取りまとめる段階に入っている。本日は事業計画の案をお示しし、ご意見を賜りたい。今後、他の部会とも整合性を図りながら、9月頃には素案として取りまとめ、パブリックコメントを行う予定としている。</p> <p>また、本日は『つなぐ』をテーマとして、それぞれの立場から、現状や課題、今後必要な取り組みについてご討議頂きたい。本日もよろしくご意見申しあげる。</p>
部会長	<p>本日も皆様のご協力をいただき、議事を円滑に進めていきたいと思う。なお、本日は「テーマ別討議」と「子ども・子育て支援事業計画の検討」の2つの内容の協議を予定している。協議状況によっては、若干、終了時刻が延長する可能性があるがご了承頂きたい。</p>

部会長	<p>2 議事</p> <p>(1) 部会の協議状況等について</p> <p>それでは議事に入る。事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>【資料1 部会の協議状況等について説明】</p>
部会長	<p>(2) テーマ別討議について</p> <p>第3回の「支える」に続き、本日は「つなぐ」をテーマに討議を行う。討議に入る前に、出雲市の取り組みを何点かご説明いただきたい。事務局から説明をお願いする。</p>
事務局	<p>①出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて</p> <p>【資料2 出雲市の発達支援に関する主な取り組みについて説明】</p> <p>事業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども支援ファイル（学校教育課） ・特別支援教育コーディネーター（学校教育課） ・就学相談（学校教育課）
部会長	<p>②討議『つなぐ』</p> <p>「つなぐ」をテーマに約1時間の討議を行う。討議のために、事前にご意見の記入もお願いしている。レジュメにも記載されているが、幾つかつなぐ場面を設定した。それぞれの委員が関わる場面から、現状や課題をお話いただく中で、今後必要な取り組みについて討議をお願いしたいと思う。</p> <p>《次の視点から討議》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児健診や在宅から幼稚園・保育所へのつなぎ ○幼稚園・保育所における内部のつなぎや外部とのつなぎ ○幼稚園・保育所から就学（小学校・特別支援学校）へのつなぎ
委員	<p>発達障がいの子どもの育てる保護者から「どこの誰に相談していいのか分からなかった」、「相談したとしても同じ事を何度も言わないといけない」というような意見を伺った。また、発達障がいがあるといわれてショックを受け、これから先どうしていけばいいのか分からない中で、自分一人で頑張っていけないといけなかったことがとても苦しかったという話もあった。保護者にとっては、一緒に考え、一緒に歩んでくれる人、いわゆるキーパーソンとなる存在が必要であるという話を伺った。</p> <p>就学に関しては、子ども支援ファイルや就学相談などいろんな取り組みがあるが、保護者には分からない動きであり、年中の頃から就学のことを悩んでいる場合がある。その悩みを相談する人がいない。一緒に考えてくれる存在が必要。全てに関して</p>

	<p>キーパーソンの存在が必要だと思った。ここに相談したらいいという窓口や、一緒に歩いて一緒に考えてくれる人がいるといい。バトンと一緒に次につなぐようなつなぎ方が必要。そういう機能や体制が整っているといいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>医療的なケアが必要な方が病院から在宅に移行する時と先ほどの意見が一致している。自分達が悩みを抱えているときに情報を教えてくれる人や、相談できる所を明確にすることが重要だと思う。病院から退院するときに主に相談し情報集約して調整するようなコーディネーターを明確にしているが、発達に不安を抱えている人にも必要だと思う。乳幼児期から地区担当保健師が身近な相談者となって保護者の気持ちに寄り添い、保育所等と連携し、一緒に考えたりするコーディネーターが必要だと思う。保護者は「幼稚園でどうしようか」とか「どこでよりよい療育が受けられるのか」というような不安を持っているので、保育所、幼稚園で受け入れる体制が必要だと思う。乳幼児健診からのつなぎには人が必要である。</p>
<p>部会長</p>	<p>コーディネートしてくれる人を明確することが必要である。</p>
<p>委員</p>	<p>出産後、訪問、健診と一番身近な存在が保健師であり、気づかれることもたくさんあると思う。また、育てにくさなどのサインを出している保護者には訪問等で保健師が気づくことができる。保護者にとって相談する前の段階で迷っている方もあり、「相談していいよ。」と肩を押してくれる人が必要だと思う。ただ、「相談していいんだよ。」というような関係づくりには時間がかかる。赤ちゃんの頃の最初のつなぎが大切であると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>乳幼児期からのつなぎはとても大切だと思う。もっと早い段階で就学指導を始めるべきだと思う。保育所、幼稚園で相談を受けた子どもが小学校に向けてどうしていくのか。早期の就学指導システムをつくっていかないとつながらないということが小学校に入ってもよく分かる。相談した段階で子どもに継続して支えていくシステムがないと、その子どもをずっと見守っていくことが難しい。年長児の時期ではなく相談を受けたときからのシステムをつくっていく必要があると思う。</p>
<p>部会長</p>	<p>保育所や幼稚園の先生は気づいて、支えて、つなげるという役があるということで、つなぐためにはどう支えているのかということが大事である。</p>
<p>委員</p>	<p>キーパーソンが大事だと思うが、「この子どもの状況が知りたい」と相談されたとき、今までどこに相談され、どんな状況だったかということが全体的に把握できるようなシステムがあればいい。今は全体としてつながっておらず、バラバラになっているように感じる。つないでいく形としての機関も必要ではないか。</p> <p>子ども支援ファイルは、活用しながら相談・支援を受けている子どももいるが、活</p>

	用していない子どもについても状況を把握し、就学につなげていくようなものにしていくといいと思う。
部会長	発達支援の拠点とする施設や機能について、拠点のイメージがあれば伺いたい。
委員	発達障がい者支援センターというような形ではなく、何でも相談できるセンターのようなものがあると思う。そこからいろいろなところにつないでいく。保健、医療、福祉、教育をコーディネートしていく機関があるといい。施設（建物）はあるにこしたことはないが、既にあるものを活用してもいいと思う。ただ、きちんとその役割を広報していくことが重要である。
部会長	あるものをうまくつなぐことによって機能ができるのではないかという意見であり、そのためのつなぐ人や窓口が必要であるという意見である。
委員	宮崎県延岡市では、保健師、心理士、特別支援教育コーディネーター、発達障害者支援センター、相談支援専門員でチームを組み、保育所や幼稚園で発達が気になる子どもの巡回訪問をし、就学相談に該当しなかった子どもも支えるような体制になっている。とても良いシステムだと思った。施設（建物）があったわけではないが、メンバーを構成し、人で支える仕組みとして早期からの就学指導が出来ていると思った。
部会長	それぞれが子育て支援や保護者支援に取り組まれているが、まとまっておらずバラバラになっているのではないかという意見がある。それがつなぎあっていたり、情報管理も含めて支援をつないでいくようなシステムが必要という意見もある。
委員	子育て広場にも保健師にでかけていただいている。保健師につなぐということは大事だという意見があったが、小さい頃は、まずは保健師に相談するといいように思う。保健師の顔が見えるということがとても大事で、保健師の存在が本当に助かっている。暮らしの中で関わってくれる人がいることが大切である。また、拠点施設やそのような機能は必要だと思う。
委員	子ども支援ファイルは大事な情報であるが、どのように保管し活用しているか。
事務局	支援ファイルは、高度な個人情報であり、保護者の方に了承を頂いた上で各学校において保管させていただくこととしている。保護者の了解の元で医療機関等を持って行くことも可能であり、柔軟に対応したいと考えている。
部会長	支援ファイルは、ほとんどが学校で保管されているか。

事務局	把握しているところでは、学校での保管がほとんどである。
委員	このファイルの情報をいろいろな場面で使っていただきたい。例えば相談に持って行き、相談を受けたところからコメントをいただくようにすればいろんな人が保護者を通じて、本人のファイルから情報が共有できる。大事なファイルなので小学校から中学校のつなぎの手段になると思うので伺った。
委員	子ども支援ファイルはつなぎとしてはいいと思うが、保護者がこれを見る機会はほとんどない。子どもや保護者の思いが少し薄いように感じる。保育所でよく使うのは、保護者が保管する支援ファイルで、保護者と一緒に作成したファイル。このサポートブックがとてもいいと思った。
委員	つなぎの意味を考えていくと、保護者や本人側からつなぎのためのサポートブックもある。
委員	支援ファイルの保管については、非常に大切な情報なので学校で保管した方がよいとも思うし、保護者がいつでも、どこでも使えるという状況であれば保護者が保管している方がいいとも思う。
部会長	支援ファイルの内容の検討はされているのか。
事務局	内容については、毎年3学期に各保育所、幼稚園、小学校、中学校にアンケートを記入してもらい、次に生かせるように検討している。保護者には検討してもらっていない。
委員	特別支援教育コーディネーターは幼稚園、小学校、中学校に配置されているようだが、保育所ではどのように対応しているのか。
事務局	保育所は、臨床心理士が巡回して気になる子どもを把握するような形をとっている。保護者の理解が得られない場合は子どもを支えることが難しい状況にある。そのような状況から保育所からは、いわゆる5歳児健診のような取組を実施してほしいという要望もあっている。こうした取組は、就学に向けて保護者と理解しあうためのきっかけにもなると考えている。
委員	保護者と連携が図れない場合には、保健師やいろいろな機関に相談している。保護者と一緒に「どうしましょうか。」というような相談がなかなかできにくい。園内のつなぎに困ることがある。

委員	<p>保育所にもコーディネーターを担うような人が必要ではないかと思う。小学校に行く前の就学相談にもつながっていくので関係機関の連携は重要なポイントだと思う。幼稚園と保育所の取扱いが違うように思える。</p>
事務局	<p>特別支援教育コーディネーターは、教育委員会に所属していた幼稚園、小学校、中学校において、子育て支援の中心的役割を担う者を所属職員の中から選んでいる。新たに人を配置しているのではない。もともと学校を対象とした制度で、保育所は対象ではなかったことから、幼稚園、小学校、中学校にのみ配置されているという現状である。</p>
委員	<p>3歳児健診後に、モデル事業の年中児（4歳児）発達相談があり、保護者と面談する機会を設けることができた。こうした相談事業は保護者と話すためのきっかけづくりになっている。</p>
部会長	<p>大事な取り組みである。</p>
委員	<p>年中児発達相談事業はとてもよい事業だと思う。園へ相談に伺った際に、気になる子どもの3歳児健診の様子を尋ねると、健診では特に何もなかったという子どももあった。3歳児健診時に保護者と話をする機会があるか、ないかはとっても大きい。</p> <p>気になるお子さんが就学のときに、就学相談というような仕組みを知らない保護者もいる。巡回相談などを活用しながら、園だけではなく、いろんなところの力を借りて皆で協力して相談の仕組みをつくっていくことが必要だと思う。相談支援チームが出雲市でできたらいいと感じた。</p>
部会長	<p>相談の仕組みづくりが必要だと伺った。</p>
委員	<p>3歳児健診時に、まだ集団に入っていない子どもが多いので、できるだけ早く集団の中に入るように勧めている。乳幼児健診や予防接種を受けていない子どもの対応が重要だと思う。保護者の同意が得られない場合や年度中途に転園してきた子どもについても対応が必要である。</p>
委員	<p>発達クリニックをする中で、在宅から園につなぐのは保健師の役割であると思う。養育困難家庭なども保健師にアプローチしてもらっている。母子保健担当の保健師が核となっているので短期間で異動しないでほしい。</p> <p>5歳児健診の話があったが、4歳児発達相談事業での巡回システムがとても有用だと思う。延岡市の様に、園での集団生活を見るために専門チームで巡回するシステムを切り口に子どもを把握することができると思う。発達相談アンケートをすることで保護者や園のいろいろな気づきもある。</p>

<p>部会長</p>	<p>幼児期の支援の1つとして、発達クリニックとか通級指導教室につないで、さらに就学相談につないでいくところの情報をどのようにコーディネートすればよいのか検討していく必要があると思う。</p> <p>各園や事業所等もいかにつなげるかということが大切である。それぞれが連携をとりながらつないでいく、チームでつないでいく、各課がつながっていく、いろんなものをつないで、つながっていく。当事者側がつなぐこともあるかもしれない。</p> <p>以上でテーマ別討議を終了する。限られた時間の中で、十分意見を出せなかった委員もおられると思うが、本日発言できなかった意見や、討議の様子を踏まえて改めて気づいたことなどがあれば事務局まで提出をお願いしたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>(3) 子ども・子育て支援事業計画（案）について</p> <p>これまでの部会の意見等をもとに、事務局が整理し、事業計画の素案を用意している。事務局から説明があった後、皆様からご意見を頂く。それでは、最初に、子育て支援事業計画の施策体系などについて、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>【資料3-1 出雲市子ども・子育て支援事業計画の施策体系について説明】</p>
<p>部会長</p>	<p>次に、先ほどの施策体系を踏まえながら、事業計画の具体的な内容について、事務局からお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>【資料3-2 事業計画策定に向けた部会意見等の整理について説明】 【資料3-3 事業計画 施策内容（案）について説明】</p>
<p>部会長</p>	<p>これから事業計画について意見交換を行う。6月2日に開催した本会で会長から、「発達支援検討部会は量の見込みは意識せずに検討する部会であるが、具体の数や仕組みの議論もしてほしい」といった趣旨の発言があった。会長の考えには賛成するところだが、この計画に「どこまで書くのか、どこまで書けるのか」ということを共通認識しておく必要がある。財政的な検討が必要なものは、現時点では、具体の数値までは盛り込めないと理解している。したがって、計画の具体的な取り組み欄のところは、例えば「〇〇の充実」や「〇〇の検討」などとされている。一方で、例えば「充実」といっても、数を増やすのか、人を増やすのかなどの具体については分からないことになる。今後、この計画に基づき、事業を確実に推進していくためには、更に具体化していくための検討が必要だと思うが、それについてはこの計画とは別の場で検討できないかと考えている。事務局において是非実行していただきたいと思う。以上のような点をご理解いただき、ご意見をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>「保育所・幼稚園の巡回訪問」について、認定子ども園等の取扱いはどうか。</p>

事務局	認定子ども園も対象としている。取り組み内容についてもう一度見直しする。十分に取り組んでいきたい。
委員	公立や私立の幼稚園、保育所がある。例えば、「公立保育所特別支援加配保育士の配置」とあるが、対象は公立だけなのか。
事務局	公立、私立に関わらず取り組んでいる。記載内容を修正する。
委員	「人材確保・育成」について、臨床心理士、保健師等のマンパワーの充足率どうか。保健師が退職することなく、ボランティアで活用されるような事例もある。
事務局	保健師については、必要な人数については適切な配置をするように内部で検討していきたい。保健師のボランティア組織などを生かしていくことも方策の1つだと思う。子育て支援課に配置されている臨床心理士は、昨年までは2名体制のところを、1名増やしたところであり、これで対応していきたい。
部会長	「発達支援を担う人材の確保・育成」は専門の方が必要だと思う。具体的な取り組みとしては、既にそのような人はいるから、研修していくということによいか。
事務局	現在は、研修の実施についてしか記載していないが、適正な人員配置も必要なことであり盛り込みたい。
委員	市内のつなげていく先が十分な状況か調べてみる必要がある。保育所として相談できるところがほしい。
部会長	保護者から相談できるところに加えて保育所の先生方からも相談できるところがほしいという意見である。
事務局	そのような内容を計画に書き加えていきたい。
部会長	幼児通級指導教室については、「相談支援体制の充実」に位置づけられているが、相談するためだけの機関ではない。「乳幼児期の支援の充実」などの方が相応しいではないか。
事務局	「乳幼児期の支援の充実」としたいと思う。
委員	「地域における発達支援と普及・啓発」について、「身近な地域で支える、地元で

	育てる視点をもった仕組みづくり」と具体的な取り組みの内容とは合致しているか。
事務局	障がいの有無に関わらず、身近な地域の中で子どもを育てていく視点が重要だと考えている。また、発達障がいへの理解促進を図っていくことも必要である。ここではそのようなことを位置づけたいと考えている。
委員	先輩親の活用による保護者への支援などもここに入ると思う。
事務局	地域の中では、専門家だけではなく、地域全体の子育ての中で支えるという仕組みが必要だと考えている。
部会長	就学までのコーディネートについてはどこに入れるのか。
事務局	「相談支援体制の充実」に盛り込んでいきたいと考えている。
部会長	例えば、具体的取組の中で「就学相談の継続」と記載されているが、改善しながらより適切な就学相談が継続されていくことを期待している。どんな思いで就学相談を展開していくのか具体的な取り組みとして書いていくと分かり易いと思う。
事務局	目的と方向性を文言で示すことができれば良いと思う。
委員	「集団生活の場における子どもの育ちを支える支援」のところに「気になる段階からの支援体制づくり」とあるが、本当に最初の段階から子どもの育ちを支援していく拠点があるといいと思う。
委員	立川市には、子ども家庭支援センターがあり、子どもや家庭からの相談などを行っている。市議会が視察に行っている。本市もこのような施設の整備が必要だと思う。
部会長	可能なところで計画案を出していただき、次回検討していきたい。 それでは、事務局に進行をお返す。
事務局	3 その他 次回の開催予定についてご連絡する。第5回部会を8月18日（月）に開催する。時間と場所は、18時30分から、くにびき大ホールで行う。本日に引き続き、事業計画について協議いただくので、出席をお願いする。

4 閉会

委員の皆様には、長時間にわたり感謝申しあげる。
本日のご意見を踏まえて、早速、事業計画の作成作業に入りたいと思う。引き続きよろしく願います。

以上で、本日の会議を終了する。

会議終了